



FC岐阜

株式会社岐阜フットボールクラブ

代表取締役社長 宮田博之 氏

前田遼一選手、柳澤亘選手のご紹介

FC岐阜に加入した選手の中で、彼ほど輝かしい経歴と記録を持っている選手はありません。J1リーグ戦での154ゴールは歴代4位、得点王2年連続2回、ベストイレブン2回、日本代表として33試合出場で10ゴールと華々しい戦績です。素晴らしい戦績を裏打ちし、誰もが納得するのは、毎日ひたすら黙々と人一倍練習に励む姿であり、全ての選手だけでなく、全ての人に感動を与えるところです。朝一番に練習場に現れ、練習前に誰よりも多く準備体操をこなし、終わった後も軽いジョギングを長時間こなし一緒に後片付けも行っていきます。

J2のFC岐阜に昨年加入し、J3に降格して皆さんに申し訳ない気持ちでJ2に戻るために今年も頑張っています。勿論、若手のお手本でありながら、呼び名は「リョウイチ」で親しまれ、若手の勢いを発揮するようのびのびプレーさせる配慮もしています。

座右の銘は『人間万事塞翁が馬』人生の幸、不幸は予測できない中で、人を常に大切にしています。そのお陰で年初のゼムノビッチ監督の就任後の選手全員への挨拶の後にこんなことが起こりました。

(監督)「前田、覚えているか？」

(前田)「はい、覚えています」

そこにいた私も誰もが初対面と思っていた二人が何を言ったのか意味が分かりませんでした。何と2001年ジュビロ磐田の前田選手のJ初ゴールは当時ゼムノビッチ監督率いる清水エスパスから奪ったものでした。前田は、まさか20年後にゼムノビッチ監督が率いるFC岐阜でプレーする因縁に鳥

肌が立ったと述懐しています。

筆者も長年の多くの人に接してきましたが、人知れず努力している人には、こうした感動的な出逢いがよく起きることに出くわせますが、彼も正にその人と思います。今シーズン末、彼を尊敬して止まないチーム全員とファン・サポーターのひたむきな努力によって、素晴らしい結果に繋がると確信しています。

家族は奥様に1姉2太郎の子供達と一番手のかかる長男坊はご本人で、奥様には感謝以外ありませんと言う愛妻家です。これからの彼のパワー炸裂にご期待ください。

柳澤 亘選手は今シーズン合宿中に負傷し、新型コロナウイルスによる練習自粛期間は丁度リハビリ専念中でした。トレーナー、土屋フィットネスダイレクターや井田フィジカルコーチの指導のお蔭で、非常に良い状態で開幕を迎えられました。普段は家にいることが多いですが、出かけてふれ合う岐阜の人々は優しく暖かく、飛騨牛は美味しく大変居心地が良いところと感じています。日本おとぎ話そのものの白川郷も気に入って2度行きました。

鹿島アントラーズからドイツで大活躍し日本代表にも選ばれ、今シーズン引退を発表した、内田篤人氏に憧れてプロ入りし、今シーズンはチーム目標のICHIGANでJ2昇格に燃え、個人的には二桁アシストと初ゴールを秘めたる目標とするクールで熱いサイドバックです。最後に24才の彼の口から出た、如何にも彼らしい言葉に声援を贈りたい。「赤い炎より青い炎の方が熱い、冷静でいながら熱い心。」



背番号:11 前田遼一 選手 FW

写真: ©Kaz Photography/FC Gifu



背番号:22 柳澤亘 選手 DF

写真: ©Kaz Photography/FC Gifu